

Bプログラム「第7回爆音映画祭」

ゴダール・ソシアリスム

映写機が壊れたかと勘違いするような、暴力的な波と海風。そしてそこには立ち現れるゴダールの「ヨーロッパ」。生きる場所すべてにワイルドサイトが広がっていることを、この映画の音が教えてくれる。

2010年/スイス・フランス/102分/35mm
提供:フランス映画社 監督:ジャン=リュック・ゴダール
サウンド:フランス・ミュージー
出演:カトリーヌ・タンヴィエ、クリスチャン・シニジェ
バティ・スミス



●4/26(土)19:00 ●4/28(月)20:20

右側に気をつけろ

ゴダール&フランソワ・ミュージーが行った映画音響に関するさまざまな試みのひとつが到達点であり、透明で狂氣すれすれの音響が生まれる秘密の場所を探求する運動の記録。爆音の頂点に君臨する爆音王者。

2010年/スイス・フランス/102分/35mm
提供:フランス映画社 監督:ジャン=リュック・ゴダール
サウンド:フランス・ミュージー
出演:レリタ・ミコ、ジャン=リュック・ゴダール、フランソワ・ペリエ
©1987 Gaumont/Veges Film AG/TSR



●4/26(土)21:15 ●5/3(土祝)19:00

フォーエヴァー・モーツアルト

アナログ・ドリーピーの時代を経て、ドリーピー・デジタル時代へと突入したゴダールの音の探求。リアルな音の分離がもたらす「戦場」の音響は忘れない記憶の手ごたえとして、私たちの身体を揺さぶる。

1996年/フランス・ドイツ/84分/BD
提供:マームイドフィルム 監督:ジャン=リュック・ゴダール
出演:ヴィンキ・メカ、マドレーヌ・アサス、ガリア・ラクロワ
監督・編集:ジャン=リュック・ゴダール



●4/27(日)19:00

映画史特別編 選ばれた瞬間

映画の20世紀を引用とコラージュで作り上げた大作『映画史』の再編集版。ゴダールが仕掛けた音の遊びが数々の物語=歴史を書き通す。本気と冗談、厳密さといい加減さが渾を巻く人類の壮大な歴史。

2005年/フランス/80分/35mm
提供:フランス映画社
監督・編集:ジャン=リュック・ゴダール



●4/27(日)21:00 ●4/28(月)18:30

リヴェニアサン

ハーバード大の感覺人類学研究所に所属する監督たちによる、漁船漁業の様子を極小カメラで複眼的に捉えた全く新しいドキュメンタリー。波、機械、そして労働者たちが奏でるヘヴィな「音楽」を聽け!

1989年/アメリカ/126分/BD
提供:ワーナー・ブラザース映画 監督:ティム・バートン
出演:マイケル・キートン、ジャック・ニコルソン
キム・ベイシンガー
©Warner Bros. Entertainment Inc.



●5/9(金)18:30

バットマン

パート版バットマン第1作。痛快さとはほど遠い、ダークで淀んだ空気の中、ゴッサムシティを見下す屋上にひとり立つバットマンの孤独が画面を覆す。そのディープな画面とプリンスの音楽!

2012年/アメリカ/87分/DCP
提供:東風 監督:ルーシャン・キャスター=ティラー
ウェーナ・バズウェル ©Arclote Ton Cinema 2012
6月シアターイメージフォーラムにてロードショー



●5/10(土)13:15 ●5/12(月)15:20

バットマン リターンズ

止めどなく破壊へと向かう世界が、物語まで壊し始める。何かを語るのではなく、この壊れ行く世界こそが物語なのだと、映画は高らかに宣言する。そんな世界の壊れる音を爆音で聴かずにはおれない。

1992年/アメリカ/126分/BD
提供:ワーナー・ブラザース映画 監督:ティム・バートン
出演:マイケル・キートン、ダニー・デ维特
ミシェル・フェアリー
©Warner Bros. Entertainment Inc.



●5/10(土)15:50 ●5/12(月)18:00

ブルーベルベット

切断された耳を拾ったことから始まるリンチ流不条理劇。この耳はバウスなのではないか。そして、その穴に迷い込む主人公は我々なのではないか。そんな妄想を搔き立ててくれるのもバウスの力。

1986年/アメリカ/120分/BD 提供:boid
監督:デヴィッド・リンチ 出演:カイル・マクラクラン
イザベラ・ロッセリーニ、デニス・ホッパー
Image courtesy of MGM/Park Circus.



●5/10(土)18:30 ●5/31(土)13:30

オンリー・ラヴァーズ・レフト・アライヴ

現代でひっそりと生きる吸血鬼たちの物語。奥ゆかしいドローンメタルが流れる中、地球の回転とコードの回転が重なり合うファーストシーンから凄まじい。そう、地球とは1枚のレコードなのだ。

2013年/アメリカ/イギリス/ドイツ/123分/DCP
提供:ロングライド 提供:ジム・ジャーミー
監督:デヴィッド・芬cher 出演:エドワード・ノートン
ブライアン・コバーン、トム・ヒルズトン
ミア・ブロコウスカ、アントン・イニャチキン
©2013 Longplay Inc. Reprinted by permission of Jim Jarmusch LLC. All rights reserved.



●4/29(火祝)18:00 ●4/30(水)20:45

ファイト・クラブ

拳を打ち合ふべく結成された「ファイトクラブ」。いつしかテロリスト集団化した彼らは、資本主義の搅乱を目指すようになるが…。バウスの終わりと共に、このクールな世界の終わりを目撃せよ。

1999年/アメリカ/139分/BD/PG-12 提供:boid
監督:デヴィッド・芬cher 出演:エドワード・ノートン
ブライアン・コバーン、トム・ヒルズトン
ミア・ブロコウスカ、アントン・イニャチキン
©Images courtesy of Hollywood Classics Ltd.



●4/29(火祝)20:30 ●5/10(土)21:00

男として死ぬ

リボンに住む中年ドラッグ・クイーンが、薬物依存症の恋人や同性愛嫌悪の息子に翻弄されながら「男として死ぬ」までを静謐に描く。ファスビンダーの「13回の新月のある年に」などを想起させる怪作。

2009年/フランス・ポルトガル/133分/BD
提供:DotDash FILMS BOUTIQUE
監督:ジョン・アーヴィング、ピート・ドリゲス
出演:フレンチ・サンズ、アレクサンデル・ダヴィッド
©Rosa Filmes



●4/30(水)18:00 ●5/3(土祝)20:50 ●5/11(日)16:15

ニール・ヤング/ジャーニーズ

2011年に行われたワールド・ソロ・ツアーファイナルの2日間を収めたライブ・ドキュメンタリー。舞台であるトントのマッセイ・ホールが、時空を超えてバウスと一緒に化してしまった感触をぜひ体験してほしい。

2011年/アメリカ/87分/BD 提供:boid
監督:ジョナサン・ディミ 出演:ニール・ヤング
©Sony Pictures



●5/3(土祝)20:50 ●5/11(日)16:15

ブルース・ブラザース

出演者を見るだけで黒人音楽ファンは涙腺が緩むはず。イケイケのJBやアレサ、キャプ・キャロウェイ、レイ・チャーチルズ、チャカ・カーン! そのご機嫌なサウンドをブラザーズと一緒にお楽しみあれ。

1980年/アメリカ/133分/BD 提供:カルチャーワークス
監督:ジョン・ランディス
出演:ジョン・ベルーシ、ダン・エイクロイド
©1980 Grateful Dead Productions. All rights reserved. Used under license from Rhine Entertainment Company.



●5/11(日)13:20 ●5/16(金)16:15

グレイフル・デッド・ムービー

ライババンドの金字塔、グレイフル・デッドの74年のコンサート。あの恐るべき巨大音響システムから繰り出されるシャープかつスウイートなサウンドが、身体の細部にまで染み渡る、至福の爆音。

1977年/アメリカ/131分/BD 提供:boid
監督:ジエラード・ガルシア 出演:ザ・グレイフル・デッド
Concert footage, musical performances and all bonus materials © 1974, 1977 & 2004 Grateful Dead Productions. All rights reserved. Used under license from Rhine Entertainment Company.



●5/11(日)18:15 ●5/21(水)20:45

ソウル・パワーパーティー

1974年、アーティフォアマンの伝説の一戦に先駆け、興行師ドン・キングが仕込んだのは世界最大のブラックミュージックの祭典だった。34年間お蔵入りしていた奇跡の記録、世界最強のライヴが甦る。

2008年/アメリカ/93分/35mm
提供:アップリンク 監督:ジェフリー・レヴィ=ヒント
出演:ジエラード・ガルシア 出演:ザ・グレイフル・デッド
©2008 Grateful Dead Productions. All rights reserved. Used under license from Rhine Entertainment Company.



●5/11(日)21:00 ●5/16(金)21:10

ラスト・ワルツ

ザ・バンドの解散ライヴの模様。ザ・バンドと音楽への愛が込められたドキュメント。豪華ゲストを迎えての最後の饗宴は、ロックの時代の大変な変化を映し出す。バウスの最後はこの映画とともに。

1978年/アメリカ/116分/35mm
提供:アダンソニア 監督:マーティン・スコセッシ
出演:ザ・バンド、ボブ・ディラン、ニール・ヤング
スピナーズ、セリーナ・クルーズ



●5/14(水)19:00 ●5/30(金)18:15 ●5/31(土)21:00

ロッキー・ホラー・ショウ

言わずと知れたB級ホラーミュージカルの金字塔。かつてバウスで上映したときは客がロビーに溢れ、コンクリートの壁にびびがに入るほど! 盛り上がったというが、さて今回はどうなるだろうか。

1975年/イギリス/99分/DCP 提供:SUMOMO
監督:ジム・ジャーミー 出演:ティム・カリー
パリー・ボストウック、スザン・サランドン
5/18,25はパフォーマンス付き上映



●5/5(月祝)17:30 ●5/18(日)20:30 ●5/25(日)20:30

アンナと過ごした4日間

ひとりの男が恋する女の家に忍び込む様を映し出すだけ、シンプルな作品。だが、彼女が眠る小さな部屋で多彩な音が聞こえるのと同じように、我々観客の多様な感情を引き出す磁力を持った映画。

2008年/フランス・フランス/94分/35mm
提供:ジイ・ユーブ
監督:エリック・スコリモフスキ
出演:アラン・ベイツ、スザン・ヨーク、ジョン・ハート
©Alain Berliner Films, Skopos Films



●5/1(木)18:30

シャウト

中原昌也はセレクトで一度だけ爆音上映され、観客を唸らしさせた怪作が再登場。いち早くドリーピー・システムを採用したスコリモフスキが神経を刺激するノイズと音のない爆音で生み出した「幻響」映画。

1978年/イギリス/87分/DCP
提供:マームイドフィルム 監督:エイジー・スコリモフスキ
出演:アラン・ベイツ、スザン・ヨーク、ジョン・ハート
©Mammoth Film



●5/4(日祝)17:30 ●5/7(水)21:00

出発

カーレースに憧れる青年と彼に振り回される恋人が繋り広げる都会的な恋物語。全編に流れるジャズとボルシェのエンジン音は相性抜群。ちなみに、ヘルマンの「断絶」は本作の精神的なリメイクだ。

1967年/ルギー/90分/DCP
提供:マームイドフィルム 監督:エイジー・スコリモフスキ
出演:ジョン・ベイツ、スザン・ヨーク、ジョン・ハート
©Mammoth Film



●5/6(火祝)21:00

HOUSE ハウス

夢とファンタジー溢れる少女映画の傑作にしてショッキングなホラー映画。全盛期のゴダイゴの音楽にのって少女らが「ハウス」に次々と食べられていく姿は、爆音上映によってこそ、輝きを増すだろう。

1977年/日本/88分/35mm 提供:東宝
監督:大林宣彦
出演:池上季実子、大場久美子、神保美喜
©1977 東宝



●5/12(月)13:20 ●5/14(水)15:00

BELLRING少女hardtの6次元ギャラクシー

爆音でもお馴染みの雑誌「TRASH-UP!」の初プロデュース作品。美少女アイドルBELLRING少女hardtを主演に迎え、殺人鬼、宇宙人、モンスターが入り乱れるカオスな世界はファンならずとも必見。

2014年/日本/70分/BD 提供:TRASH-UP!!
監督:継田淳/出演:BELLRING少女hardt
©BELLRING少女hardtの次元ギャラクシー製作委員会2014



●5/13(火)19:00

愛のむきだし

馬鹿馬鹿しくもが離せない、愛の4時間。主人公の心臓の鼓動と地鳴りのような重低音、その反復のうねりと、ゆらゆら帝国の音楽、樂曲の愛の空洞に木霊する、むきだしの叫びのアンサンブルは必聴です。

2008年/日本/237分/35mm/R-15+
提供:シント・フィルム 監督:園子温
出演:西島隆弘、満島ひかり、安藤サクラ
©「愛のむきだし」フィルム・リース



●5/21(水)13:30 ●5/25(日)13:30

ゆらゆら帝国 2009.04.26 LIVE @日比谷野外大音楽堂

ゆらゆら帝國が20周年記念ライヴ。緩やかに大きめに、激しく空気を揺らす。ディスクに収まりきるはずもない彼らの音楽。東京の空と街に向かって演奏されるそれは、さらにその先へと視界を広げる。

2010年/日本/95分
提供:ソニー・ミュージックアソシエイティッドレコーズ
監督:大根仁/出演:ゆらゆら帝國



●5/22(木)14:00 ●5/24(土)16:00

フック

大人になったピーターパンが再びフック船長と戦う。今やスビルバーグの旗印となつた孤児」の主題が、初めて全面展開された記念碑的作品。そこで描かれるふたつの世界を貫く音に耳を澄ませたとき、この映画の世界が開けるはず。

1991年/アメリカ/142分/BD 提供:boid<br

Bプログラム「第7回爆音映画祭」

**アトムス・フォー・ピース、
ライヴ・アット・スタジオ・コースト**
昨年の東京公演の模様を爆音上映のために再編集したプレミアム版。トム・ヨークのフルセットボイスは勿論、フリーやジョーイ・ワコンら最強のリズム隊が轟かせる低音を体感できる貴重な機会。
2014年/日本/70分/予定 分/BD
提供:Hostess Entertainment
編集:Shige Hamada (Open Stance)
出演:アトムス・フォー・ピース



●5/13(火)21:00 ●5/26(月)18:45

キャスト・アウェイ
無人島にたったひとり漂着した男のサバイバル生活とその後を描く「現代のロビンソン・クルーソー」。本作をサーフィン映画として見るところが、爆音の使命である。どういう意味かは見てのお楽しみ!
2000年/アメリカ/143分/BD 提供:boid
監督:ロバート・ゼメキス
出演:トム・ハンクス、ヘンリ・ハント、クリストファー・ノース
Image courtesy of Paramount/Park Circus.



●5/15(木)15:00 ●5/19(月)13:30 ●5/31(土)16:00

ターミネーター
説明不要のシウちゃんの出世作。何も考えずパウスの真ん中に座って、ひっきりなしに続くハチャメチャな攻防戦と爆音が体を預ければよし。これぞ爆音の醍醐味。別れの言葉は、「I'll be back」で!
2010年/アメリカ/108分/DCP
提供:カルチャヴィル 監督:ジェームズ・キャメロン
出演:アーノルド・シュワルツェネッガー、マイケル・ビーン



●5/15(木)18:00 ●5/18(日)18:05

シガー・ロス INNI
過去の爆音上映がすべてソールドアウトとなったシガーロスのライヴ作品が、待望の再上映! 彼らが絆き出す暗闇をゆらめく光のような音の響きが、粒子の荒いモノクロの映像によって際立つ一作。
2011年/イギリス/75分/DVD
提供:Hostess Entertainment
監督:ヴィンセント・モリセット/出演:シガーロス



●5/15(木)20:20 ●5/26(月)18:45

SAVE THE CLUB NOON
2012年4月に風営法違反で摘発された大阪のクラブ「NOON」。この老舗クラブを救うべく開催されたイベント「SAVE THE NOON」を撮るその艱差しさは、まさに「Fight for your right to party」の実践。
2013年/日本/93分/BD
提供:「SAVE THE CLUB NOON」製作委員会 監督:宮本杜朗
出演:ハナレガミ、七尾旅人、いとうせいじ
ILL-BOSTINO (THA BLUE HERB)、中納良恵 (EGO-WRAPPIN')
©SAVE THE CLUB NOON製作委員会



●5/23(金)16:15

**ピースティ・ボーイズ
撮られっぱなし天国**
2004年10月4日のピースティ・ボーイズのライヴで、50人の観客は渡されたビデオカメラでの撮影が許可される。その臨場感あふれるアマチュアの映像は、1年間の編集期間を経て見事に「作品」となった。



●5/23(金)18:45 ●5/26(月)14:45

**ミッセル・ガン・エレファント
"THEE MOVIE"-LAST HEAVEN 031011-**
「世界の終わりはそこで待ってる」、でもミッセルの音は鳴り止まない。第3回爆音映画祭で多くのクリエイターによって上映されたもうひとつのは「ラスト・ワルツ」をラスト・パラスでもう一度。
2012年/イタリア・フランス/115分/35mm
提供:エスパス・サロウ/監督:マルコ・ベロッキオ
出演:トニ・セルヴィッコ、イザベル・ユペル、マヤ・サンガニョル、ジョルジオ・ベロッキオ、アルバ・ロルバーグ
©2012 Cattleya Srl-Bace Films SAS



●5/24(土)13:30 ●5/30(金)15:45

眠れる美女
「こちら」と「どちら」の隔たりに執拗にこだわり続けるベロッキオは、「尊嚴死」という生と死の狭間に横たわる身体の有り様をどのような映像と音響で捉えたのか? 倫理とはカメラ位置の問題だ。
2012年/イタリア・フランス/115分/35mm
提供:エスパス・サロウ/監督:マルコ・ベロッキオ
出演:トニ・セルヴィッコ、イザベル・ユペル、マヤ・サンガニョル、ジョルジオ・ベロッキオ、アルバ・ロルバーグ
©2012 Cattleya Srl-Bace Films SAS



●5/26(月)20:30 ●5/29(木)14:30

ボーラX

カラックスがここで拘泥するのは疾走の果ての転倒、転倒による垂直運動。その運動により穿たれた穴へ堕ちてゆくたちを、衝突と反発を繰り返し混沌へなだれ込むS・ウォーカーの企音が待ち受ける。
1999年/フランス・イタリア・スイス・日本/134分/35mm
提供:ユーロスペース 監督:ロオス・カラックス
音楽:スクット・ウォーカー/出演:ギヨーム・ド・バルデュー
カリヌスドーヴ、エカテリーナ・ゴルバーチル、デルフィーニ・ショイヨー



●5/18(日)15:20 ●5/30(金)20:40

ソウルメン

引退したふたりの中年シンガーが復活するまでの涙と笑いと歌と暴力と愛とで一気に語る。完成を前に突然死したバーニー・マークの遺作。「ソウルマン」と言えばサム&ディヴ。ファン必見の物語。
2008年/アメリカ/100分/DVD
提供:カルチャーバーナブルシヤー 監督:マルコム・D・リー
監督:フランス・オーランド・コッポラ
出演:サミエル・L・ジャクソン、バーニー・マーク
アイザック・ヘイズ、シリコン・リール、ジョン・レジェンド
Image courtesy of Sony Park Circus.



●5/16(金)19:00 ●5/19(月)16:30

ドラキュラ

コボラ作品の中でもひと味わ異彩を放ち、それゆえ間に葬られたままのドラキュラ映画。しかしもちろん、音量を上げれば尋常ならぬ音響世界が闇の中でサークルする。サーフィン映画の伝説。過去の爆音でも繰り返し上映された爆音殿堂入り作品。
1992年/アメリカ/127分/BD 提供:boid
監督:フランス・オーランド・コッポラ
出演:サミエル・L・ジャクソン、バーニー・マーク
アイザック・ヘイズ、シリコン・リール、ジョン・レジェンド
Image courtesy of Sony Park Circus.



●5/20(火)18:30 ●5/29(木)18:30

クリスタル・ボイジャー

カメラを背負ったサーファーがとらえた波と空にビンクフロイドの「エコーズ」が鳴り響き、宇宙の果てまでサークルする。サーフィン映画の伝説。過去の爆音でも繰り返し上映された爆音殿堂入り作品。
1972年/オーストラリア・アメリカ/79分/35mm
提供:レイバッハ・コーポレーション
監督:カルチャーバーナブルシヤー
出演:サミエル・L・ジャクソン、バーニー・マーク
アイザック・ヘイズ、シリコン・リール、ジョン・レジェンド
Image courtesy of Palt Beach Pictures PTY LTD 1972



●5/20(火)21:10 ●5/31(土)19:00

5windows

それぞれの時空を生きる4人の男女が不意にすれ違う。たったそれだけのアクションから紡がれる、かくも瑞々しい夏のドラマ。蓮沼執太による玩具箱をひっくり返したような音楽もペリーナイス。
2012年/日本/40分/BD 提供:boid
監督:瀬田なつき
出演:中村ゆりか、斎藤陽一郎、長尾寧音、染谷将太



●5/19(月)21:00

シミラー バット ディファレン
恋人たちの微妙な心のすれ違いを繊細に綴った心理劇。監督を務めたのは人気若手俳優の染谷将太。渡邊琢磨による静謐なラテン音楽が、この无声映画的な味わいの作品にミステリアスな花を添える。
2013年/日本/25分/BD 提供:MIXVOWXXX
監督:染谷将太/脚本:瀬田なつき/音楽:渡邊琢磨
出演:平野鈴、染谷将太、bim ©2013 MIXVOWXXX



●5/21(水)18:00

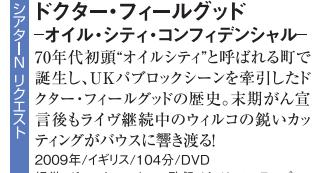
5windows Mountain Mouth

山口情報芸術センター主催「架空の映画音楽のための映像コンペティション」のために作られた「5windows」の「山=mountain、口=mouth」編。山口市内の風景を優しく包みこむのは青葉市子のハミング。
2013年/日本/8分/BD 提供:山口情報芸術センター
監督:瀬田なつき/出演:中村ゆりか
協力:山口情報芸術センター[YCAM]



●5/21(水)18:00

デス・ブルーフ in グラインドハウス
過去の爆音上映のなかでもわけ観客が燃えた一作。モーター音を響かせながら殺氣立つ不気味な男に向え撃つガールズ達の雄叫び。そして強烈な激突音。まさに爆音上映のために作られた映画。
2007年/アメリカ/113分/35mm/R-15+
提供:ブロードメディア・スタジオ
監督:ケンティン・ランティー/出演:カート・ラッセル
ロザリオ・ドーリン、ローズ・マッコーン、ゾイ・ペル
©2007 The Weinstein Company



●5/22(木)16:05 ●5/24(土)20:40

ドクター・フィールグッド
-オイル・シティ・コンフィデンシャル-
70年代初頭「オイルシティ」と呼ばれる町で誕生し、UKパンクシーンを牽引したドクター・フィールグッドの歴史。末期がん宣言後もライブ继续中のヴィルコの観いカッティングがハイバスに響き渡る!
2009年/イギリス/104分/DVD
提供:ボニーキャニオン 監督:ジュリアン・テンブル
出演:ドクター・フィールグッド ©Copyright 2009 Ovitz Music Ltd.



●5/22(木)18:30

GET ACTION!
NYで行われたボアダムス発案のイベントの記録。グルグルと渦を巻くように置かれた77台のドラムから音の渦は、周囲のさまざまな音を巻き込み、その空間と大地の記憶をも音の源にする。
2008年/日本・アメリカ/89分/DVCAM
提供:KATHMANDU TRIO PRODUCTION, BORETRONIX
監督:川口潤/出演:77BOADRUM(Vo)REDOMS, Hisham Akira Bharoocha, David Nuss, Brian Chippendale, Jaiiko Suzuki, Andrew W.K., David Grubbs, and more. ©Mark Borthwick
©2014 NIJIPAN KING RECORDS All Rights Reserved.



●5/23(金)14:00 ●5/27(火)20:45

SAVE THE CLUB NOON
2004年10月4日のピースティ・ボーイズのライヴで、50人の観客は渡されたビデオカメラでの撮影が許可される。その臨場感あふれるアマチュアの映像は、1年間の編集期間を経て見事に「作品」となった。



●5/23(金)16:15

**ピースティ・ボーイズ
撮られっぱなし天国**
2004年10月4日のピースティ・ボーイズのライヴで、50人の観客は渡されたビデオカメラでの撮影が許可される。その臨場感あふれるアマチュアの映像は、1年間の編集期間を経て見事に「作品」となった。



●5/23(金)18:45 ●5/26(月)14:45

**ミッセル・ガン・エレファント
"THEE MOVIE"-LAST HEAVEN 031011-**
「世界の終わりはそこで待ってる」、でもミッセルの音は鳴り止まない。第3回爆音映画祭で多くのクリエイターによって上映されたもうひとつのは「ラスト・ワルツ」をラスト・パラスでもう一度。
2012年/イタリア・フランス/115分/35mm
提供:エスパス・サロウ/監督:マルコ・ベロッキオ
出演:トニ・セルヴィッコ、イザベル・ユペル、マヤ・サンガニョル、ジョルジオ・ベロッキオ、アルバ・ロルバーグ
©2012 Cattleya Srl-Bace Films SAS



●5/24(土)13:30 ●5/30(金)15:45

眠れる美女
「こちら」と「どちら」の隔たりに執拗にこだわり続けるベロッキオは、「尊嚴死」という生と死の狭間に横たわる身体の有り様をどのような映像と音響で捉えたのか? 倫理とはカメラ位置の問題だ。
2012年/イタリア・フランス/115分/35mm
提供:エスパス・サロウ/監督:マルコ・ベロッキオ
出演:トニ・セルヴィッコ、イザベル・ユペル、マヤ・サンガニョル、ジョルジオ・ベロッキオ、アルバ・ロルバーグ
©2012 Cattleya Srl-Bace Films SAS



●5/26(月)20:30 ●5/29(木)14:30

SECRET

5/19(月)18:45
5/24(土)12:00
5/25(日)12:00
5/29(木)17:00
21:10
5/30(金)14:00
5/31(土)11:10

Cプログラム「LAST BAUS / LAST LIVE」

かつて吉祥寺バウスシアターは演劇、コンサート、落語会も上演される多目的な劇場でした。1984年4月にオープンして30年、残念ながら今年その歴史に幕を下ろしますが最後の最後バウスシアターに於いてさまざまなミュージシャンがコンサートを行います。最後のバウスシアターの思い出をみなさんの胸に刻み込んでください。

~Makoto Kubota Presents~ BLACK WAXのライブと映画『スケッチオブミヤーク』の上映

トーク:久保田麻琴
6/1(日) 開場17:30 | 開演18:00

トークゲスト:細野晴臣

6/2(月) 開場18:30 | 開演19:00

トークゲスト:ピーター・バラカン

前売・当日 ¥3,500

cero × VIDEOTAPEMUSIC

6/4(水) 開場19:00

開演19:30

前売・当日 ¥3,500

6/7(土)

開場15:30

開演16:00

前売・当日 ¥3,500

『ラストショー』

佐藤GWAN博、高田連、アーリー・タイムス・ストリングス・バンド、佐久間順平、倉沢桃子、ハチャトウリアン樂団 etc

6/7(土)

開場15:30

開演16:00

前売・当日 ¥3,500

~BoGumboRosa Presents~
『映画、ブルース、ライブ、演劇、お笑い、プロレス、どんと、生、無くして有り得ない、その場に居なくてごめんなさい。』

Dr.KyOn、玉城宏志、黒川修、小関純匡、岡地曙裕、長見順、吾妻光良、うつみようこ

6/10(火) 開場18:30 | 開演19:00

前売・当日 ¥3,500

~渋谷La.mama Presents~ 『今宵、我らのギターは鳴り響く! Volume 6~9で。』

Controversial Spark
GRANDFATHERS、オワリカラ

6/9(月) 開場18:30 | 開演19:00

前売・当日 ¥3,500

渋谷La.mama Presents
『今宵、我らのギターは鳴り響く!
Volume 6~9で。』

Controversial Spark

GRANDFATHERS、オワリカラ

6/10(火) 開場18:30 | 開演19:00

前売・当日 ¥3,500